

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	電気の性質とその利用（理科）
学年	小学校第6学年
目標	偶数、奇数の意味や性質、整数は偶数と奇数に類別できることを理解する。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	MakeCode (micro:bit)
環境	児童2人で1台の端末を利用
都道府県	埼玉県
実施校	戸田市立美女木小学校
学習活動の概要・児童の様子（プログラミングの活動を中心に記載ください。）	<p>1 前時までの振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none">電気は蓄電できること。光の他、音や動き、熱などにも変換できることを確認する。 <p>2 本時の課題を把握する。</p> <p>暗くなったときに電気がついて、明るくなったときに電気が消えるプログラムを作ろう</p> <p>3 見通しを立てる。（全体）</p> <p>4 解決をする</p> <ul style="list-style-type: none">ワークシートをもとにしてプログラムを作る。 <p>明るい時は電気が自動で消えるようにする 明るさセンサーを使おう</p> <p>人がいない時は電気が自動で消えるようにする 人感センサーを使おう</p> <p>5 ペアで自分の考えを相手に伝える。</p> <p>6 完成したプログラムを発表して全体で共有する。</p> <p>7 まとめる。</p> <p>身の回りにはさまざまなセンサーを使ったプログラムがあり、わたしたちの生活を助けてくれている。センサーを使うことで省エネすることができる。</p> <p>8 本時の振り返りをする。</p>
成果と課題	<p>○センサーを使うことで省エネすることができることが分かり、資源の有効利用について考えることができた。</p> <p>▲子供達にとっては明るさを数値化することが難しかった。</p>

